

## 原 著

# 基礎看護学実習における清拭援助実施前の指導に関する研究 ——看護教員の指導時に着目している情報と判断および指導行動について——

川島 良子<sup>1</sup>

1 新潟県上越市新南町 240 新潟県立看護大学

## 要 旨

**【背景・目的】** 臨地実習における教員の指導行動は看護ケア及び学習に重要である。本研究では、基礎看護学実習で学生が日常生活援助技術を実施する前の指導において、教員が着目している情報と、指導における教員の判断および指導行動を明らかにした。

**【対象と方法】** 臨地実習における援助実施前の学生に対する模擬指導場面を設定し、看護教員 10 名が模擬指導を行う場면을 VTR に撮ったのちにインタビューを行った。VTR の言動と逐語録から、指導時に着目している情報、その際の判断の内容、模擬学生に対する指導行動を抽出しカテゴリ化した。

**【結 果】** 指導時に着目している情報は「学生が立案した援助計画の記載内容」など 3 つ、判断は「援助の必要性和援助項目の選択の適切さの吟味を促す指導に関する判断」など 5 つ、指導行動は「目標設定や援助項目の選択理由などに関する指導行動」など 6 つが抽出された。

**【結 語】** 教員は学生が的確に援助ができるように多くのことに着目し指導時の判断から指導を行っていた。また、指導の際には学生の心情に配慮しつつ指導が行われていた。

## 文献情報

## キーワード：

臨地実習,  
日常生活援助,  
指導,  
判断,  
看護教員

## 投稿履歴：

受付 令和 2 年 8 月 12 日  
修正 令和 2 年 10 月 2 日  
採択 令和 2 年 10 月 5 日

## 論文別刷請求先：

川島良子  
〒943-0147 新潟県上越市新南町240  
新潟県立看護大学  
電話：025-526-2811（代表）  
E-mail: kawasima@niigata-cn.ac.jp

## I. 緒言

看護への社会のニーズは多様化しており、それに応える看護実践が求められている。看護実践能力において、看護技術を適切に実施するためには、基本技術の技能を高めることが重要である。看護教育の内容と方法に関する検討会報告書<sup>1</sup>では、看護師に求められる看護実践能力と卒業時の到達目標とその到達度を示している。また、その教育の在り方が示され、教員や実習指導者の指導能力の向上の必要性が述べられている。学生にとって臨地実習は未知の体験であり、その学習には教員や実習指導者の指導が欠かせない。特に、生活体験の乏しい学生にあって、患者に合わせた看護技術を提供するための患者の状態や環境など様々なことを考慮した援助方法を選択する能力の養成には時間がかかり、学生自身の力だけでは習得が困難である。野村<sup>2</sup>は臨地実習で学ぶことの意味を「人生の途上で健康問題を体験している人や危機的状況にある人に出会い、身を添わすことによって、人間の尊重・自由・精神性・苦痛のもたらす意味を身をもって感じ、人間とは、看護とは何かを問う学習プロセスを自分の体を通して経験することである」と述べている。ことに日常生活を援助する技術（以下、日常生活援助技術）は、患者の生活の質に直接影響を与える行為であり、その実践においては、的確に判断して確実に援助できる能力が求められる。日常生活援助技術は臨床側

からも臨地実習において経験が必要な技術とされており,<sup>3</sup> 実習における経験率も高い。<sup>4</sup> したがって、臨地実習において生活援助技術の援助の習得は重要である。そのためには、看護教員あるいは臨地実習指導者の指導が欠かせない技術である。

臨地実習における教員の行動に関する先行研究をみると、実習全般にわたる教員の教授活動の要素を抽出し、実習における教員の教授活動を学生と患者、教員の相互行為場面から明らかにしているもの<sup>5</sup> や実習目標達成に向けた教員の行動について、学生と教員の相互行為場面から明らかにしたもの<sup>6</sup> が報告されている。また、学生が指導をどのように受け止めているかに関する研究<sup>7</sup> では看護技術の同行指導などが成長につながったことが明らかになっている。また、基礎看護学実習の指導のあり方を検討した研究では、学生の認識の発展がみられた指導過程から指導のポイントを明らかにした研究<sup>8</sup>、学生の学びから教員の学生への認知の変容過程を明らかにした研究<sup>9</sup> などがある。しかし、日常生活援助技術を指導する際の指導に関する研究はみあたらない。教員が臨地実習指導において日ごろ行っている指導に対して、どのような情報に着目して、何について判断し、どのような指導行動をとっているかを明らかにすることは、教員の指導方法の熟達に有用性を示すことができると考える。このことにより、実習指導の充実を図ることができるとともに、学生の看護実践能力の向上が図れるものとする。そこで、日常生活援助技術指導に焦点をあて、看護教員が行う指導についてどのような判断をして指導を行えば適切な指導に結び付けられるかの示唆を得たいと本研究に取り組んだ。

## II. 用語の定義

着目している情報：教員が指導を行う際に着目している情報

判断：指導の必要性やどのような指導を行うかを意思決定すること

指導行動：指導を行う際にとった教員の行動

## III. 研究目的

基礎看護学実習において学生が日常生活援助技術を実施する前の指導において、教員が着目している情報と、指導における教員の判断および指導行動を明らかにする。

## IV. 研究方法

### 1. 対象者

看護師養成機関において基礎看護学実習の指導を担当しており、教育経験が2年以上ある教員10名を対象とした。基礎看護学実習担当教員とした理由は、学生が看護過程

に基づいて日常生活援助技術を初めて実施する実習であり、教員はその実施前に様々な視点から指導を行うと考えたからである。研究協力依頼書において、模擬学生への模擬指導を行っていただきたいことなど、研究方法の詳細を説明して同意が得られた方を対象とした。

### 2. データ収集方法

対象者が実習担当教員として模擬学生に対して指導を行う場面を設定して、ナースセンターを想定した個室で、指導は机の前に学生と教員が並んで座り、実際に指導を行っていただいた。その場면을同意を得てVTRに撮影した。カメラは学生と教員の表情が捉えられる位置に設定した。研究者は隣室でVTRを通して観察を行い記録用紙に記録した。

研究者は、指導終了後に、観察記録と撮影記録をもとに対象者ととも指導行動を確認し、その場面で何に着目していたのか、その場面でどのような判断を行い、なぜそのような指導行動をとったのかについてインタビューを行った。

指導場面は以下に示す内容で設定した。対象者には、データ収集当日(模擬指導実施日)に研究者から、実習科目の設定、学生の設定、患者の設定を説明した後に、教員として清拭実施前の援助計画の模擬指導を行うことを依頼した。

### 3. 模擬指導場面の設定

模擬指導場面は、基礎看護学実習の位置づけと目的・目標、学生のレディネス、受持ち患者(以下、患者)の設定、援助計画立案の課題などを設定した。なお、設定場面は、実際に照らして妥当であるか、基礎看護学および看護教育学領域を専門とする教員の助言を受けて設定した。

#### 1) 実習科目の設定、指導場面の設定

学生は2年次とし、実習科目は基礎看護学実習Ⅱで、看護過程を展開して患者に必要な日常生活援助を実施する実習として、実習目的、実習目標を設定した。

指導場面は模擬学生に清拭を実施するために立案した援助計画について指導を行う場面とした。清拭の指導場面とした理由は、患者に清拭を行うためには、体を拭く手順的技能に、体位変換、寝衣交換の手法も加わる複合的な技術であること、患者の状態をふまえて、その個性に合わせて安全安楽を考慮して変容させて行う必要があり、多様な指導の判断が行われるためである。

#### 2) 模擬学生の設定

学習進度は教養科目、専門基礎科目の一部を習得し、専門科目は看護学概論、看護過程の展開技術、成人及び老年看護学概論、日常生活援助技術、診療補助技術などを習得し、1年次生の11月頃に基礎看護学実習Ⅰを経験した設定とし、学生の知識、実習に臨む態度などを設定した。指導を受ける場面は、「実習3日目で初めて行う清拭の援助計画を立案し、清拭実施の当日朝、患者に挨拶したのちに教員に援助計画の指導を受ける場面とした。学生役を演じる模擬学生には、事前に学生の設定を説明した。

### 3) 患者の設定

患者は胃がんで胃全摘術の術後3日目と設定した。学生が受持ちを開始した日から援助計画を立案するまでの、バイタルサイン、術後処置、日常生活動作などの経過がわかるように設定した。

### 4. 分析方法

以下の3つの観点から分析を行った。分析過程の確かさを高めるために、質的研究の経験のある2名の研究者と一致するまで協議した。

#### 1) 指導にあたり着目している情報

指導行動のきっかけとなった着目している情報は何かという視点で逐語録を熟読し、1つの意味のある着目している情報ごとに1記録単位として抽出した。得られた300記録単位を内容の類似性によってカテゴリ化した。

#### 2) 着目している情報から指導行動に至る指導上の判断

着目している情報から指導行動を選択するために判断している内容は何かという視点で逐語録を熟読し、抽出した判断内容を要約し1記録単位とした。得られた224記録単位を意味内容の類似性によってカテゴリ化した。

#### 3) 指導行動

模擬学生に対して働きかけている指導行動を抽出し、指導行動ごとに1記録単位とした。抽出した318記録単位を意味内容の類似性によってカテゴリ化した。

### 5. 倫理的配慮

対象者および研究協力者(模擬学生)の研究参加は自由意思を尊重し、断ったことにより不利益を被ることがないこと、研究の途中でも中断できることを十分に説明した。また、指導は10分程度で、指導場面はVTRに撮影することを説明し同意を得て行った。

本研究は研究実施時の所属大学研究倫理審査委員会の承認(20愛看大第42号)を得て実施した。

## V. 結果

### 1. 対象者の属性

看護系大学教員5名、看護専門学校教員5名であった。教員経験は2~5年が4名、6~10年が2名、11~15年が2名、16年以上が2名で、臨床経験年数は1~5年が3名、6~10年が3名、11年以上が4名であった。臨地実習指導を経験した実習領域は基礎看護学のみが3名、基礎看護学と他領域が7名で実習指導に関する指導を受けた経験(複数回答)は、上司からの指導4名、臨地実習指導者講習会の受講2名、教員研修5名、指導を受けた経験はないが1名であった。

### 2. 指導における教員の着目している情報(表1)

31の小カテゴリ、12の中カテゴリを抽出し、3つの大カテゴリに分類した。以下に大カテゴリを【 】、中カテゴリ

表1 教員が指導時に着目している情報

大カテゴリ	中カテゴリ	小カテゴリ
学生が立案した援助計画の記載内容	学生が記載した目標設定と援助項目の選択理由	・目標設定の記載内容 ・立案した計画における学生の意図・目標 ・学生が選択した援助項目
	患者の個別的な状態にあった具体的な方法に関する記載	・活動可能な範囲・自立度をふまえた手順の記載 ・点滴やルート類を考慮した寝衣・体位変換の具体的な手順の記載 ・清拭の手順の具体的な記載 ・一般的な計画と患者の個性の情報の記載内容 ・拭き方の具体的な記載
	清拭に必要な基本的事項の記載の有無と内容	・患者と学生の位置や患者の体位・体位変換の記載 ・観察の具体的な内容や方法の記載の有無と内容 ・清拭に必要な基本的事項の記載の有無と内容
	援助時間や人数についての学生の考え・記載	・援助開始時間や所要時間についての学生の考え・記載 ・援助者の人数と役割分担の記載
援助において留意する患者の状態	創部などの患者の状態	・患者は手術後で創部がありガーゼ・腹帯をしている
	患者の状況を示す観察点と活動範囲・自立度	・患者は痛みがある差・患者の痛み以外の症状やバイタルサインなど ・患者の活動可能な範囲・自立度
	患者に挿入されている点滴やルート類の状態	・患者は点滴をしている ・患者にはドレーン・硬膜外チューブ・膀胱留置カテーテルが入っている
	患者の性別・年齢	・患者の性別・年齢
学生の学習状況・準備状況	援助前の学生への教育・指導、経験の内容	・実習前の学習内容と実技経験の程度 ・実習前に教育・指導している内容 ・援助前に学生が学習・経験していること ・実習前に未学習の内容
	援助前の学生の学習の理解や患者把握の状態	・学生の援助前の学習や理解の状況を示す言葉や反応 ・学生の患者把握の状態を示す言葉や反応 ・学生の練習・準備の取り組み状況を示す言葉や態度
	学生が初めて経験すること	・学生が初めて経験すること ・学生が初めて実際の患者に援助を行うこと ・学生が初めて看護過程を展開すること
	実習段階と実習開始後の日数など	・実習は初期の段階で実習開始後3日目である

を〔 〕、小カテゴリを〈 〉で示す。また、インタビューで得られた記録データは「 」で示す。

### 1) 【学生が立案した援助計画の記載内容】

このカテゴリは、学生が立案した援助計画の記載内容や、援助計画に関する学生の発言を示し、4つの中カテゴリから構成された。

〔学生が記載した目標設定と援助項目の選択理由〕は、〈目標設定と記載内容〉、〈立案した計画における学生の意図・目標〉など3つの小カテゴリから構成された。具体的には「患者目標に『すばやく』という自分の目標を書いている」などの目標設定に関する記載内容や、「学生が痛みを最小限にして行いたいと言っている」といった立案時の意図などに着目していた。

〔患者の個別的な状態にあった具体的な方法に関する記載〕は、〈活動可能な範囲・自立度をふまえた手順の記載〉、〈点滴やルート類を考慮した寝衣・体位変換の具体的な手順の記載〉、〈一般的な計画と患者の個別性の情報の記載内容〉など7つの小カテゴリから構成された。具体的には「患者にできることも学生が援助する方法が記載されている」ことや「ドレーンに配慮した具体的な記載がない」などに着目していた。また、「具体策や留意点に患者の状態が反映されていない」など患者への配慮に関する記載内容や「創やドレーンがある腹部の拭き方に関する記載」といった患者の条件に関する記載、「学生の立つ位置や患者の体位の具体的な記載がない」ことなど学生の行動レベルに着目していた。

〔清拭に必要な基本的事項の記載の有無と内容〕は〈清拭に必要な基本的事項の記載の有無と内容〉で構成され「必要物品の種類と数の記載」などに着目していた。

〔援助時間や人数についての学生の考え・記載〕は、〈援助開始時間や所要時間についての学生の考え・記載〉、〈援助者の人数と役割分担の記載〉の2つの小カテゴリで構成された。

### 2) 【援助において留意する患者の状態】

このカテゴリは、援助を実施する際に留意するべき患者の状態に着目していたことを示し、4つの中カテゴリで構成された。

〔創部などの患者の状態〕は〈患者は手術後で創部がありガーゼ・腹帯をしている〉の小カテゴリで構成された。具体的には、「手術後である」ことや「患者に創部があること」に着目していた。

〔患者の状況を示す観察点と活動範囲・自立度〕は〈患者の痛み以外の症状やバイタルサインなど〉、〈患者の活動可能な範囲・自立度〉など3つの小カテゴリで構成された。具体的には「患者に熱があったこと」や「血圧が高めだったこと」に着目していた。

〔患者に挿入されている点滴やルート類の状態〕は〈患者は点滴をしている〉、〈患者にはドレーン・硬膜外チューブ・膀胱留置カテーテルが入っている〉の2つの小カテゴリで構成された。具体的には、「患者は点滴をしている」こ

と、「患者にドレーンが入っている」などに着目していた。

### 3) 【学生の学習状況・準備状況】

このカテゴリは、学生の既習の学習や実施前の準備状況に着目していたことを示し、4つの中カテゴリで構成された。

〔援助前の学生への教育・指導、経験の内容〕は〈実習前の学習内容と実技経験の程度〉、〈実習前に教育・指導している内容〉など4つの小カテゴリで構成された。具体的には、「清拭やフィジカルアセスメントは既に学習している」、「オリエンテーションで練習の必要性を伝えている」、「学生は昨日看護師の清拭を見学している」、「外科系の看護や疾病論は学習していない」ことなどに着目していた。

〔援助前の学生の学習の理解や患者把握の状態〕は〈学生の援助前の学習や理解の状況を示す言葉や反応〉、〈学生の患者把握の状態を示す言葉や反応〉、〈学生の練習・準備の取り組み状況を示す言葉や態度〉の3つの小カテゴリで構成された。具体的には、「学生が昨日見学した清拭を覚えていない」、「学生が患者の状態を具体的に答えられない」、「学生が計画を立案してきた」という行為などに着目していた。

〔学生が初めて経験すること〕は〈学生が初めて経験すること〉、〈学生が初めて実際の患者に援助を行うこと〉、〈学生が初めて看護過程を展開すること〉の3つの小カテゴリで構成された。具体的には「学生は初めて術後患者を受け持った」、「学生は初めて患者の清拭を行う」、「学生は初めて実際に看護過程を展開する」ことに着目していた。

〔実習段階と実習開始後の日数など〕は〈実習は初期の段階で実習開始後3日目である〉で構成され、「学生は実習3日目である」などに着目していた。

## 3. 指導時の教員の判断 (表2)

31の小カテゴリ、11の中カテゴリ、5つの大カテゴリが抽出された。

### 1) 【援助の必要性和援助項目の選択の適切さの検討を促す指導に関する判断】

このカテゴリは、学生が選択した清拭援助について再検討を促す判断を示す。

〔清拭の援助が患者に必要なかつ適切だと考えた理由や判断を確認しよう〕は〈学生が情報から患者の状態をどのように理解しているかを確認しよう〉、〈学生は情報と結びつけて清拭の必要性や適切さを判断しているか〉、〈清拭援助の中で学生が石鹸清拭を選択した意図・理由を確認したい〉の3つの小カテゴリで構成された。具体的には「学生は昨日の状態で今日の計画を立ててきたが、今日実施できるかどうかが大切である。朝の状態を私も確認できていないので確認しよう」と判断していた。

〔清拭以外の援助項目についても検討を促そう〕では〈学生が考えていない適切な援助項目についても学生に考えてほしい〉で構成され、「患者が気持ちいいと感じることは、学生のプラスにもなるはずなので、部分浴の提案をし、学

表2 指導時の教員の判断

大カテゴリ	中カテゴリ	小カテゴリ
援助の必要性和援助項目の選択の適切さの吟味を促す指導に関する判断	清拭の援助が患者に必要かつ適切だと考えた理由や判断を確認しよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生が情報から患者の状態をどのように理解しているかを確認しよう</li> <li>・ 学生は情報と結びつけて清拭の必要性や適切さを判断しているか</li> <li>・ 清拭援助の中で学生が石鹸清拭を選択した意図・理由を確認したい</li> </ul>
	清拭以外の援助項目についても検討を促そう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生が考えていない適切な援助項目についても学生に考えてほしい</li> </ul>
情報を活かして計画を立案し看護を展開する必要性の指導に関する判断	計画を個別性に合わせて具体的に立案する必要性を指導しよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計画が一般的なもので個別な情報を活かして個別性に合わせて具体的に計画することを指導しよう</li> <li>・ 見学した清拭や患者の状態を思い出して、患者の状態にあった計画ができるように結びつけてほしい</li> <li>・ 学習した内容を想起させて具体策に活かせるようにしたい</li> <li>・ 立つ位置まで具体的に計画することを考えてほしい</li> <li>・ 意識化・行動化のために具体的に記載することを促したい</li> </ul>
	患者の尊重、安全安楽への配慮が反映された計画立案を促そう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 安全安楽に配慮する大切さを意識してほしい</li> <li>・ 患者の意向も確認して患者を尊重して行うこと、説明まで計画する大切さを意識してほしい</li> </ul>
	計画の実施可能性を学生が考えられるようにしよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生が立案した計画では15分では実施できず、患者にも負担をかけることを学生に理解してほしい</li> <li>・ 実現可能な計画であるかを考えさせたい</li> </ul>
	援助目標の適切な表現を考えさせよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 患者目標が患者主体の目標になっていないので、その必要性和適切な表現を考えさせたい</li> </ul>
患者の情報をふまえた実際の援助技術の選択や工夫の指導に関する判断	点滴・ライン類・創部・痛みなどの条件をふまえた計画か確認し、患者に配慮できるように指導しよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 患者ができる範囲をふまえた方法ではないので、自立度を配慮した具体的な方法を考えることを指導しよう</li> <li>・ 患者に痛みがあることに配慮して援助を考えているか確認しよう</li> <li>・ 点滴やライン類に配慮した計画ではないので、理解を確認して意識させ、体位なども含めて配慮できるように指導しよう</li> </ul>
	清拭の方法を行動要素から指導の必要性を確認しよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 寝衣交換や清拭の順番について原則や選択の根拠をおさえたい</li> <li>・ 清拭時の観察が具体的ではないので必要性和方法を指導しよう</li> <li>・ 物品の使用方を考えて計画しているか確認しよう</li> <li>・ 体の拭き方が性別や身体状況を考慮した適切な方法ではないので指導しよう</li> </ul>
学生の学習状況や心理面に配慮した指導に関する判断	学生の学習状況を確認して指導しよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生の学習状況をふまえて指導内容・方法を選択しよう</li> <li>・ 実際の場面で学生が行動できるように指導しよう</li> <li>・ 援助前に練習などの準備をしているか</li> <li>・ 学生は患者や計画の立て方・書き方がイメージできないのではないか</li> </ul>
	学生の心情に配慮しよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生を否定せずよいところを認めよう</li> <li>・ 指導を受ける学生の気持ちに配慮して指導内容・順番を考えよう</li> <li>・ 援助が学生にとってもよい体験となるように計画を修正したい</li> </ul>
指導の順番や時期・場、方法などに関する判断	指導の順番や時期・場、方法を検討しよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指導の順番や時期、場などを考えながら指導しよう</li> <li>・ 学生の行動予定、指導にかかった時間を考えて、この後の指導内容や方法を調整しよう</li> <li>・ 援助時に学生にできること、教員・看護師が行うことを調整しよう</li> </ul>

生は応用的なことは気づかないから、教えたい」などと判断していた。

2) 【情報を活かして計画を立案し看護を展開する必要性の指導に関する判断】

このカテゴリは、患者の情報や学習内容の想起を促す指導に関する判断を示している。

〔計画を個別性に合わせて具体的に立案する必要性を指導しよう〕は〔計画が一般的なもので個別な情報を活かして個別性に合わせて具体的に計画することを指導しよう〕など5つの小カテゴリで構成された。具体的には「学生は情報を見て情報から計画を立案しなければいけないが、一般的な計画になっている。質問することで学生が気づくこともあるはずだから、そのように情報を確認して、その情報をもとに計画を立案できるとよいことを伝えたい」と判断して

いた。

〔患者の尊重、安全安楽への配慮が反映された計画立案を促そう〕は〔安全安楽に配慮する大切さを意識してほしい〕などの2つの小カテゴリで構成された。具体的には「患者も意思をもっている。患者自身がどういう援助をうけ、どういう風に参加するのか知りたいはず。患者中心にするには説明が大事なのでそこを学生に意識してほしい」などと判断していた。

〔計画の実施可能性を学生が考えられるようにしよう〕では、〈学生が立案した計画では15分では実施できず、患者にも負担をかけることを学生に理解してほしい〉では「計画した清拭は15分では無理であること、術後3日目の患者に対して、学生が立案した計画で清拭をすることは苦痛である。学生が立てた計画を実施することは学生には良い学びにな

るが、患者に迷惑がかかってはいけな。学生に時間がかかってやるのはいいことではないことを伝えたい」などと判断していた。

〔援助目標の適切な表現を考えさせよう〕は〈患者目標が患者主体の目標になっていないので、その必要性和適切な表現を考えさせたい〉で構成され、「患者目標が自分の目標になっているので、患者がどうなるか書かれていないと評価できない」と判断していた。

### 3) 【患者の情報をつまえた援助技術の選択や工夫の指導に関する判断】

このカテゴリは、患者の状態からその方法を選択したり工夫することを指導する必要性を判断していた。

〔点滴・ライン類・創部・痛みなどの条件をつまえた計画を確認し、患者に配慮できるように指導しよう〕では、〈患者ができる範囲をつまえた方法ではないので、自立度を配慮した具体的な方法を考えることを指導しよう〉、〈患者に痛みがあることに配慮して援助を考えているか確認しよう〉、〈点滴やライン類に配慮した計画ではないので、理解を確認して意識させ、体位なども含めて配慮できるように指導しよう〉の3つの小カテゴリで構成された。具体的には「ドレーンが入っているので一般的な清拭の方法とは異なる。ドレーンが抜けたり、曲げたりすることがあってはいけないということも考えてほしい。ドレーンの管理や体位のことを注意して実施することを理解してほしい」と判断していた。

〔清拭の方法を行動要素から指導の必要性を確認しよう〕では、〈寝衣交換や清拭の順番について原則や選択の根拠をおさえない〉、〈清拭時の観察が具体的ではないので必要性和方法を指導しよう〉、〈物品の使用法を考えて計画しているか確認しよう〉など4つの小カテゴリで構成された。具体的には「順番を考えないと、学生はわからなくなるから動けるようにしたい。清拭の順番は基本は上から下だが、患者の苦痛や体位変換の回数によっては考えて、患者に必要ななら陰部が先でもいいことをおさえる」などと判断している。

### 4) 【学生の学習状況や心理面に配慮した指導に関する判断】

このカテゴリは、学生の学習状況や心情に配慮する指導の内容や方法を判断していた。

〔学生の学習状況を確認して指導しよう〕は〈学生の学習状況をふまえて指導内容・方法を選択しよう〉など4つの小カテゴリで構成された。具体的には「学生は答えられるはず」や「障害期で患者には負担が大きいことの理解は学生には難しいので、質問だけにする」などを判断していた。

〔学生の心情に配慮しよう〕は〈学生を否定せずよいところを認めよう〉、〈指導を受ける学生の気持ちに配慮して指導内容・順番を考えよう〉、〈援助が学生にとってもよい体験となるように計画を修正したい〉の3つの小カテゴリで構成された。具体的には「安全に実施する場合の患者の状態

が記載されていないことは問題であるが、頑張っやってきたことは認めたい」や「清拭が初めてで、今までのことを質問しても覚えていないことから、学生は、いけなかったとマイナスにとらえているのではないか。だから、学生の気持ちを軽くしてあげたい。そして気持ちを上向きにしてあげたい」、「患者には気持ちよくなってほしいし、学生がそのことをみつけて、患者の思いを叶えられるようなケアができる」とい」などと判断していた。

### 5) 【指導の順番や時期・場、方法などに関する判断】

このカテゴリは、指導する順番やいつどこで指導するかについて判断していたことを示す。

〔指導の順番や時期・場、方法などを検討しよう〕は〈指導の順番や時期、場などを考えながら指導しよう〉、〈学生の行動予定、指導にかかった時間を考えて、この後の指導内容や方法を調整しよう〉、〈援助時に学生にできること、教員・看護師が行うことを調整しよう〉の3つの小カテゴリで構成された。具体的には「学生の状況が実際にどの程度、実施できるかわからない。一緒にやることで把握して、必要なら学生を指導しよう」、「5人受けもっているの、指導時間のスケジュールを考えるため実施までにどのくらいの時間があるかを確認したい」、「学生は一人ではできない。看護師が入るなら、役割分担をお願いしなくてはいけない」と判断していた。

## 4. 教員の指導行動 (表3)

30の小カテゴリ、15の中カテゴリ、6つの大カテゴリを抽出した。

### 1) 【目標設定や援助項目の選択理由などに関する指導行動】

このカテゴリは、援助目標に関する指導や清拭の選択理由などを確認する指導行動を示す。

〔目標設定が適切で患者の状態に対して実施可能な計画であるか検討を促す質問・説明〕は〈患者目標を適切で具体的なものにする必要性を指導〉、〈清拭を選択した理由を質問〉、〈患者の状態から計画が実施可能か検討を求める質問と説明〉、〈安全安楽に配慮して清拭を実施することを目標に含めて考えることについての質問・指導〉の4つの小カテゴリで構成された。具体的には「あいまいな目標の表現について質問し具体的にすることを説明」、「清拭を選択した理由を質問」、「患者の状態から計画が実現可能か検討を求める質問」、「安楽ということを踏まえて清拭の目標を表現するように指導」などがみられた。

### 2) 【創部・痛み・点滴・ライン類などの条件に対応した個別的な計画を立案するための指導行動】

このカテゴリは、患者の状態・条件をつまえた個別性のある計画にする必要性に関する指導行動を示す。

〔計画を患者の個別性に合わせて適用できるものに修正する必要性和方法を説明〕は〈より具体的で個別性に対応した計画を立案する必要性の説明と修正の促し〉で構成され、

表3 教員の指導行動

大カテゴリ	中カテゴリ	小カテゴリ
目標設定や援助項目の選択理由などに関する指導行動	目標設定が適切で患者の状態に対して実施可能な計画であるか検討を促す質問・説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者目標を適切で具体的なものにすることを指導</li> <li>・清拭を選択した理由を質問</li> <li>・患者の状態から計画が実施可能か検討を求める質問と説明</li> <li>・安全安楽に配慮して清拭を実施することを目標に含めて考えることについての質問・指導</li> </ul>
創部・痛み・点滴・ライン類などの条件に対応した個別的な計画を立案するための指導行動	計画を患者の個別性に合わせて適用できるものに修正する必要性と方法を説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・より具体的に個別性に対応した計画を立案する必要性の説明と修正の促し</li> </ul>
	清拭の準備や基本的手技を確認する質問と説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・清拭の具体的な方法と順序、体位について質問・説明</li> <li>・石鹸の使用部位の質問・説明と部分浴の物品の使用方法を指導</li> <li>・環境調整と必要物品の具体的な準備方法を確認</li> </ul>
	患者の自立度や性別などに応じた清潔前と清拭時の方法の質問・説明・提案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者の自立度を質問・説明し、自立度を考慮した援助方法を選択する必要性を説明</li> <li>・性別にあわせた援助方法を説明</li> </ul>
	創部やドレーン挿入という条件が加わった患者の腹部の拭き方の質問・説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の計画した方法で創部やドレーンがある患者の腹部が拭けるか質問し適切な方法を説明</li> </ul>
	痛みのある患者への注意点・配慮を質問・説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・痛みのある患者への注意点・配慮を質問・説明</li> </ul>
	点滴やドレーンに合わせて清拭・寝衣交換の方法について質問・説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・点滴中であることを確認</li> <li>・点滴中の患者の清拭・寝衣交換の具体的な方法を質問・説明</li> <li>・管が入っている患者の寝衣交換の留意点を説明</li> </ul>
	留置カテーテル挿入中の患者の陰部の清潔方法について質問・指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・留置カテーテルが入った患者の陰部の清潔方法について質問・指導</li> <li>・陰部の清潔方法の選択に関する質問、陰部洗浄の必要性の説明と実施の促し</li> </ul>
清拭前と清拭時の患者の状態把握・観察と、患者を尊重した援助などに関する指導行動	清拭の際の患者の状態把握と清拭時の観察の必要性と内容・方法を指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者の状態と情報収集の方法を質問、学生とともにカルテの情報を確認し説明</li> <li>・清拭時の観察の重要性と内容・方法を質問・指導</li> <li>・患者の状態から清拭ができるか否かを判断することを指導</li> </ul>
	患者への説明の計画や患者の意思の確認・説明なども計画する必要性を指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者への説明の計画や患者の意思について質問し、患者の意思の確認や説明なども計画する必要性を指導</li> </ul>
学生の学習や能力の確認と既習の知識・技術の活用を促す指導行動	学生の既習内容の確認とその活用を促す質問や説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習の学習内容と技術の経験を確認する質問・説明</li> <li>・経験・見学した技術の内容を想起して活用を促す質問や説明</li> </ul>
	学生の力量と実現可能な計画であるかの検討の必要性の説明・提案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1人で実施できるかの質問、複数人による援助の提案および役割分担検討の必要性の説明</li> <li>・援助の予定所要時間を質問し検討を促す</li> </ul>
学生の心理面を支持し学習を支援する指導行動	学生の行動や発言を受けとめ、不安や疑問を質問	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の行動や発言を認める・受けとめる言葉</li> <li>・学生の不安や疑問を質問し支持する言葉</li> </ul>
	学生の具体的な学習行動を支持し促す指導行動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な学習行動を促す質問・説明</li> </ul>
指導の時間や体制の調整に関わる指導行動	学生・教員・看護師の行動計画の調整について説明・提案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の行動計画と清拭の実施予定時間を質問</li> <li>・学生と教員・指導者の行動や調整方法について説明・提案</li> </ul>

「患者の状態・個別性に計画を対応させる必要性を指導」などがあった。

〔清拭の準備や基本的手技を確認する質問と説明〕は〔清拭の具体的な方法と順序、体位について質問・説明〕など3つの小カテゴリで構成された。具体的には「清拭の具体的な方法と順序を一つ一つ確認」、〔清拭時の患者の体位について質問・説明〕などがみられた。

〔患者の自立度や性別などに応じた清潔前と清拭時の方法の質問・説明・提案〕は、〔患者の自立度を質問・説明し、自立度を考慮した援助方法を選択する必要性を説明〕など2つの小カテゴリで構成され、〔患者にできること・できないことを質問・説明〕などがみられた。

〔創部やドレーン挿入という条件が加わった患者の腹部の拭き方の質問・説明〕は〔学生の計画した方法で創部やドレーンがある患者の腹部が拭けるか質問し適切な方法を説明〕で構成され、〔計画した腹部の拭き方が実施可能か質問し不適切であることを説明〕などがみられた。

〔痛みのある患者への注意点・配慮を質問・説明〕は〔痛みのある患者への注意点・配慮を質問・説明〕で構成され、〔痛みのある患者の体位変換・寝衣交換の留意点を質問・説明〕などがみられた。

〔点滴やドレーンに合わせて清拭・寝衣交換の方法について質問・説明〕は〔点滴中であることを確認〕、〔点滴中の患者の清拭・寝衣交換の具体的な方法を質問・説明〕など

3つの小カテゴリで構成され、「点滴中の寝衣の着脱方法などについて質問」などがあった。

〔留置カテーテル挿入中の患者の陰部の清潔方法について質問・指導〕は〔留置カテーテルが入った患者の陰部の清潔方法について質問・指導〕など2つの小カテゴリで構成され、〔留置カテーテルが入っていることを想起させる質問〕などがあった。

### 3) 【清拭前と清拭時の患者の状態把握・観察と、患者を尊重した援助などに関する指導行動】

このカテゴリは、清拭前やその後の患者の状態の把握の必要性や患者の意思を尊重して援助を行う必要性について指導していたことを示す。

〔清拭の際の患者の状態把握と清拭時の観察の必要性と内容・方法を指導〕は〔患者の状態と情報収集の方法を質問、学生とともにカルテの情報を確認し説明〕など3つの小カテゴリで構成され、「具体的な患者の状態と情報収集の方法を質問」などがみられた。

〔患者への説明の計画や患者の意思の確認・説明なども計画する必要性を指導〕で〔患者への説明の計画や患者の意思について質問し、患者の意思の確認や説明なども計画する必要性を指導〕では「患者自身の考えを質問し確認することを指導」などがあった。

### 4) 【学生の学習や能力の確認と既習の知識・技術の活用を促す指導行動】

このカテゴリは、学生の学習内容や能力の確認を行い、既習の知識や技術の活用を促す指導行動を示す。

〔学生の既習内容の確認とその活用を促す質問や説明〕は、〔既習の学習内容と技術の経験を確認する質問・説明〕、〔経験・見学した技術の内容を想起して活用を促す質問や説明〕の2つの小カテゴリで構成され、具体的には「見学した看護師の清拭について質問し参考にするを促す」などがみられた。

〔学生の力量と実現可能な計画であるかの検討の必要性の説明・提案〕は〔1人で実施できるかの質問、複数人による援助の提案および役割分担検討の必要性の説明〕、〔援助の予定所要時間を質問し検討を促す〕など2つの小カテゴリで構成された。具体的には「清拭を一人で実施できるか質問し、複数人で行うことを提案」などがみられた。

### 5) 【学生の心理面を支持し学習を支援する指導行動】

このカテゴリは、援助にとどまらず、学生の心理的側面に配慮する指導行動を示す。

〔学生の行動や発言を受けとめ、不安や疑問を質問〕は〔学生の行動や発言を認める・受けとめる言葉〕、〔学生の不安や疑問を質問し支持する言葉〕の2つの小カテゴリで構成された。具体的には「計画を立案してきたことを認める言葉」、「疑問・不安を質問し、不安を受け止める言葉」などがみられた。

〔学生の具体的な学習行動を支持し促す指導行動〕は〔具体的な学習行動を促す質問・説明〕で構成され、「清拭の実

施前に準備すべき学習内容とタイミングを指導」などがみられた。

### 6) 【指導の時間や体制の調整にかかわる指導行動】

このカテゴリは、指導の調整を図る指導行動を示す。

〔学生・教員・看護師の行動計画の調整について説明・提案〕では〔学生の行動計画と清拭の実施予定時間を質問〕、〔学生と教員・指導者の行動や調整方法について説明・提案〕など2つの小カテゴリで構成され、「教員と一緒に援助することを伝える」などがみられた。

## VI. 考察

### 1. 基礎看護学実習における援助実施前の指導の様相

実習指導を行う教員の指導時の着目している情報と判断と指導行動に注目した。教員は、指導する際には学生がどの段階にあるかの情報として、「実習3日目」や「初めて実施すること」から、学生の〈学習状況を確認して指導しよう〉などの指導方法を選択する判断を行っていた。そのことは、指導行動の、【学生の学習や能力の確認と既習の知識・技術の活用を促す指導行動】などの指導行動を導き、学生への質問や説明などを行うことで実習の段階に合わせた指導を行っていることが明らかであった。学生の学習を支援する為には、学生の学習状況を的確にとらえて、学生の学習課題を見極める必要がある。特に実習では、学内で学んだ知識や技術を臨地で統合して経験が経験知となるように支援していくことが必要である。

【情報を活かして計画を立案し看護を展開する必要性の指導に関する判断】は、〔患者の尊重、安全安楽への配慮が反映された計画立案を促そう〕といった指導を具体的に判断していた。このことは、基礎看護学実習で初めて患者を受け持つ学生の指導の特徴ではないかと考える。学生は、初めて患者に援助を行う場合、緊張や不安を伴うものと推察する。学生は患者との関わり方や配慮すべき事柄について経験不足である。基本的な説明と同意について実践したことがなく、その方法にも戸惑うこともあるものと推察する。教員は学生に対して患者への配慮を促すことで、はじめて形成する患者-学生といった関係の中で、学生が患者に対して尊重した態度を意識して行動できるようになることを期待する。このことは、学生が患者を尊重してかかわるとはどのようなことを理解させることにつながり、さらには学生が患者との関係を築くことにつながる指導であると考えられる。

清拭を行うには、体位変換や寝衣交換、観察など多くの看護技術を複合的に活用して援助する必要がある。学生が適切に清拭の援助を行うには、的確な技術とともに状況判断も必要である。教員は、〔清拭の援助が患者に必要なかつ適切だと考えた理由や判断を確認しよう〕と判断しているように、学生の援助の判断や意図などを確認しようとした。学生の認識に働きかけて、学生が自ら考えられるように指

導していることが分かる。看護過程の思考が未熟な学生に対して、一方的に指導を進めるのではなく、学生の反応を捉えて、学生の意図や思いを大切に指導することが必要である。また、技術が的確に行えるように、学生の判断を促して思考の整理を行い援助につなぐことが重要である。そのためには、教員は学生に問いかけ、学生の思考を促し、学生の持つ知識と経験を、指導によって結び付けていくことで、学生が援助の適切な実施の判断ができるようにする指導であったと考える。

## 2. 技術実施前の指導のあり方

基礎看護学実習では、看護技術を初めて実施することが多い。そこで、教員は学生が適切に援助できることを目指して指導を行っていた。薄井<sup>10</sup>は、「看護実践は明確な一貫した目的意識をもった実践である」と述べている。学生が技術を実施しようとする際に、教員は、その援助がどのような目的で行われ、どのような具体策であるかを検討していた。そこには、看護援助には目的がある必要性があることを指導しようとしていることが考えられる。学生が立案した計画から〈学生が立案した計画では15分では実施できず、患者にも負担をかけることを学生に理解してほしい〉といった判断があるように、学生に指導する視点と患者を看護する視点をもつことが必要であることが示唆される。学生に、目的意識をもたせる関わりが重要であると考え。学生は、実習目標達成に向けて実習を行うが、学生が援助を通して看護することの意味を考えるようになることも重要である。そのためには、教員の意図的な学生へのかかわりを必要としている。学生に目的をもった援助を導き出せるようになるように教員が支援していくことも必要である。

また、教員は、技術の提案や、学生が不明な知識について説明を行うなどして学生に働きかけていた。学生の学習支援を行いながら、指導にあたることが重要と考える。

教員は、「手術後である」ことや、「点滴などライン」「痛み」など、患者の条件にも注目して、学生が経験のない患者の条件に対する援助の難しさについて指導を行っている。〔患者ができる範囲をふまえた方法ではないので、自立度を配慮した具体的な方法を考えることを指導しよう〕と学生に考えさせるような指導を行う判断をしている。学生が、自ら考えて問題を解決できるように指導している。滝島<sup>11</sup>は、看護技術の能力を育成するための臨地実習の方法として、「技術の根拠の指導」を挙げている。学生の思考力を養うためには、学生が技術を実施する際の援助の根拠を考えることを促すことが必要と考える。

また、学生が患者の条件を考慮していないことから、「ドレーンが入っているので一般的な清拭の方法とは異なる。ドレーンが抜けたり、曲げたりすることがあってはいけないということも考えてほしい。ドレーンの管理や体位のことを注意して実施することを理解してほしい」と判断し、

指導行動として〔創部やドレーン挿入という条件が加わった患者の腹部の拭き方の質問・説明〕を行っている。学生が患者の条件を見落としていることを捉えて、学生が患者の条件に着目できるように指導を行っている。ウィーデンバック<sup>12</sup>は、「教師は学生にさまざまな病気、障害、病状の表われにふれる機会を与え、また次のような三つのもっとも基本的な看護技術を身につける機会を与えているのである。すなわち、十分意味のある接近の仕方、目的に沿った反応、概略にとんだ行為の三つである」と述べている。本研究の患者の条件とは、患者のもつ疾患からくる種々の状態をさしている。学生に対して、その条件に目を向けさせて、患者の置かれている状態に即した援助を行うように導いている判断と考える。

## 3. 実習指導への示唆

基礎看護学実習では、学生は様々なことについて、初めて経験することがしばしばである。その経験が、学生にとってより確かな経験となるように指導を行うことが大切である。教員が、学生の学習状況について、学生の記録である援助計画からみえるものと、学生との対話で確認できるものがあつた。そこには、学生と患者、臨地という環境の中にある授業をいかに行うかが問われるものと考え。ウィーデンバック<sup>13</sup>は、「患者のケアにあたる学生の判断力と技能を高める洞察を開発するような刺激をあたえることができるのは、単に決められた通りの臨床経験ではなく、その臨床分野における教師の教え方なのである」と述べている。指導時に着目している情報や判断、指導行動には学生の認識に働きかける問いがあつた。問いには、〈患者の状態から計画が実施可能か検討を求める質問と説明〉、〈既習の学習内容と技術の経験を確認する質問・説明〉など、学生に問いかけながら指導を行っていた。学生が自ら考えられるように支援することが実習指導では重要であることが示唆される。また、〈学生の行動や発言を認める・受けとめる言葉〉といった指導行動もあつた。教員は学生が行う援助を通して、学生のもつ知識から援助の的確な判断の仕方を導き、さらに学生の心情に配慮しつつ行うことの必要性が示唆された。

また、〔指導の順番や時期・場、方法などを検討しよう〕という判断は、学生が行う援助の指導について、教員がいつ、何をどのように指導を行うかを判断していた。〈学生の行動予定、指導にかかった時間を考えて、この後の指導内容や方法を調整しよう〉や〈援助時に学生ができること、教員・看護師が行うことを調整しよう〉と現在の援助計画への指導から、その後の指導について検討し、次の指導の段階を判断していた。学生が援助を行う際には、一人で実施することが少なく、特に清拭援助では教員や臨地実習指導者の指導を必要とする。したがって、教員はその援助を実施するための時間調整や役割調整などを行う必要があつた。基礎看護学実習では、学生が自ら時間を調整したり、役割

調整を行うことは困難なことが多いと推察する。教員は学生とともに時間を調整することや誰と援助を実施するかを調整することは欠かせないことであると考え。そうすることで、患者に対して安全な援助を実施することができるものとする。

## VII. 研究の限界と課題

日常生活援助技術の指導に関する教員の判断がどのように行われ指導されているかを明らかにした。臨地実習において教員がどのような情報をもとに指導時の判断を行い指導行動につなげているかの一部を示すことができた。

今後の課題として、援助実施前に限らず援助中や援助後の指導について明らかにすることが必要である。

## VIII. 結論

1. 指導において着目している情報は、【学生が立案した援助計画の記載内容】など3つのカテゴリが抽出された。
2. 判断は【援助の必要性和援助項目の選択の適切さの吟味を促す指導に関する判断】など5つのカテゴリが抽出された。
3. 指導行動は【目標設定や援助項目の選択理由などに関する指導行動】など6つのカテゴリが抽出された。
4. 日常生活援助を実施する前の学生の指導には援助を的確に行うために〈目標設定が適切で患者の状態に対して実施可能な計画であるか検討を促す質問・説明〉、〈計画を患者の個性に合わせて適用できるものに修正する必要性と方法を説明〉、などの指導が行われていた。
5. 指導の際には、【学生の心理面を支持し学習を支援する指導行動】がとられていた。

## 謝辞

本研究を行うに当たり、研究にご協力いただいた教員の皆様に感謝申し上げます。

本研究は愛知県立看護大学学長特別教育研究費の助成を受けて実施しました。

本研究の一部は、第35回日本看護研究学会学術集会および日本看護学教育学会第19回学術集会に発表しました。

## 利益相反

本研究に関して開示する利益相反はない。

## 文献

1. 厚生労働省. 看護教育の内容と方法に関する検討会報告書 2011.
2. 野村明美. 看護教育における授業と学習形態. 藤岡完治(編集). 看護教育の方法. 東京: 医学書院 2002: 110-111.
3. 井上真奈美, 田中愛子, 川嶋麻子ら. 学生の看護基本技術経験に関する臨床看護職の認識. 山口県立大学看護学部紀要 2005; 9: 7-15.
4. 折山早苗, 岡本亜紀. 看護学生の実習での技術経験の実態と主観的到達度に影響を及ぼす因子—中国地方の複数の看護系教育機関を対象とした分析—. 日本看護科学学会誌 2015; 35: 127-135.
5. 小川妙子, 舟島なをみ. 看護学実習における教員の教授活動—学生と患者の相互行為場面における教員行動に焦点を当てて—. 千葉看護学会誌 1998; 14: 54-60.
6. 廣田登志子, 舟島なをみ, 杉森みどり. 実習目標達成に向けた教員の行動に関する研究—看護学実習における学生との相互作用行為場面に焦点を当てて—. 看護教育学研究 2001; 10: 1-14.
7. 黒田裕子, 合田友美, 小藪智子ら. 教員による臨地実習に対する看護学生の受け止め方. 川崎医療短期大学紀要 2010; 3: 23-27.
8. 徳永基与子, 三瓶眞貴子, 山田秀樹. 基礎看護学実習における臨地実習指導のあり方—基礎看護学実習での指導過程を分析して—. 京都市立看護短期大学紀要 2009; 34: 5-74.
9. 仙田志津代. 看護教員の看護学生への認知の変容過程—臨地実習における看護教員と看護学生のかかわりをとおして—. 医療保健学研究 2010; 1: 103-116.
10. 薄井坦子. 改訂版 科学的看護論. 東京: 日本看護協会出版会 1990: 13.
11. 滝島紀子, 長尾淑子. 実習指導者が考える学生の看護実践能力を育成するための実習指導の方法. 川崎市立看護短期大学紀要 2017; 22: 19-28.
12. E. ウィーデンバック. 臨床実習指導の本質—看護学生援助の技術 (都留伸子ら訳). 東京: 現代社 1996: 45.
13. E. ウィーデンバック. 臨床実習指導の本質—看護学生援助の技術 (都留伸子ら訳). 東京: 現代社 1996: 132.

---

# A Study on Guidance before the Bed Bath Care in Fundamental Nursing Practice

— Focused Information, Decision Making and Teaching Behavior of Nursing Teachers —

Ryoko Kawashima<sup>1</sup>

<sup>1</sup> Niigata College of Nursing, 240 Shinnan-cho, Joetsu, Niigata 943-0147, Japan

---

## Abstract

**Background/objective:** The teaching behaviors of teachers in clinical practicums are important for nursing care and learning. In this study, we clarified the type of information teachers pay attention to and teachers' decision making and teaching behaviors during the instruction implemented before the students practice daily living support skills in a Fundamental nursing practice.

**Subjects and methods:** Ten nursing teachers were interviewed after video recording in a simulated instruction setting in which the teachers instructed students before they perform daily living support in a clinical practicum. From video-recorded behaviors and verbatim transcripts, points of focused information, contents of decision making, and teaching behaviors to simulated students during the instruction were extracted and categorized.

**Results:** Three points of focused information, such as "contents of support plans prepared by students," five contents of decision making, such as "decision making about instruction to facilitate reviewing the necessity of support and appropriateness of selected activities to support," and six teaching behaviors, such as "teaching behaviors related to goal setting and reasons for selecting particular activities to support" were extracted.

**Conclusion:** The teachers paid attention to many things so that the student could provide care, and guidance was given based on the decision making at the time of teaching. In addition, instructions were provided while considering the opinions of the students.

---

---

### *Key words:*

Clinical practicum,  
daily living support,  
instruction,  
decision making,  
nursing teacher

---